



萬葉集註釋

卷九十
十一十二

特別
4
5497
3



特

門 4
號 5497
卷 3

萬葉集註釋卷第七

第七卷之餘



人違班衣麻面就吾今所念未服友

紅衣除雜欲著丹穗成人可知

千石人雜云織次我廿物白麻衣



昭和三十一年
十月四日
購求

わらふ意のよげんも...
...
華根之葱念而結互之玉緒云者人將解八方
わのねの葱念... 結互之玉緒云者人將解八方
...
白玉手年者不纏尔...
白玉手年者不纏尔...
...
あ...
...
...
...
...
...

照佐豆我手尔纏古須玉毛欲得其緒者替而吾玉尔將為
照佐豆我手尔纏古須玉毛欲得其緒者替而吾玉尔將為
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

伏聯王之小琴之事無者甚幾計吾將應也毛
伏聯王之小琴之事無者甚幾計吾將應也毛
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

洲之海...

~~~~~

陸奥之昔田多良直弓着結而引者吾人之昔平事将成

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

南洲之細川山立權弓束級人二不知所

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

石金之聚木敷山尔入始而山名竹澤出不勝鴨

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


陸... 頼... 仲... 日... 卷... 雄... 朝... 雅... 子... 宿... 称... 天... 皇... 春... 三... 月... 癸... 卯... 朔... 丙... 午... 幸... 於... 茅... 渚... 宮... 衣... 通... 御... 姬... 秋... 之... 日... 茅... 渚... 辞... 陪... 途... 松... 弥... 母... 阿... 阿... 柳... 毛... 異... 舍... 儺... 茅... 利... 宇... 弥... 能... 波... 摩... 乞... 能... 余... 留... 茅... 松... 於... 時... 天... 皇... 謂... 衣... 通... 御... 姬... 曰... 是... 哥... 不... 可... 聆... 他... 人... 皇... 后... 聞... 必... 大... 恨... 故... 時... 人... 号... 濱... 藻... 謂... 奈... 能... 利... 曾... 乞... 也... 之... 中... 深... 也...

仲... 日... 卷... 雄... 朝... 雅... 子... 宿... 称... 天... 皇... 春... 三... 月... 癸... 卯... 朔... 丙... 午... 幸... 於... 茅... 渚... 宮... 衣... 通... 御... 姬... 秋... 之... 日... 茅... 渚... 辞... 陪... 途... 松... 弥... 母... 阿... 阿... 柳... 毛... 異... 舍... 儺... 茅... 利... 宇... 弥... 能... 波... 摩... 乞... 能... 余... 留... 茅... 松... 於... 時... 天... 皇... 謂... 衣... 通... 御... 姬... 曰... 是... 哥... 不... 可... 聆... 他... 人... 皇... 后... 聞... 必... 大... 恨... 故... 時... 人... 号... 濱... 藻... 謂... 奈... 能... 利... 曾... 乞... 也... 之... 中... 深... 也...

仲... 日... 卷... 雄... 朝... 雅... 子... 宿... 称... 天... 皇... 春... 三... 月... 癸... 卯... 朔... 丙... 午... 幸... 於... 茅... 渚... 宮... 衣... 通... 御... 姬... 秋... 之... 日... 茅... 渚... 辞... 陪... 途... 松... 弥... 母... 阿... 阿... 柳... 毛... 異... 舍... 儺... 茅... 利... 宇... 弥... 能... 波... 摩... 乞... 能... 余... 留... 茅... 松... 於... 時... 天... 皇... 謂... 衣... 通... 御... 姬... 曰... 是... 哥... 不... 可... 聆... 他... 人... 皇... 后... 聞... 必... 大... 恨... 故... 時... 人... 号... 濱... 藻... 謂... 奈... 能... 利... 曾... 乞... 也... 之... 中... 深... 也...

Handwritten notes in the right margin of the right page.

Main handwritten text on the right page, written in a cursive style.

Main handwritten text on the left page, written in a cursive style.

あまの

己上層有物也

挽物

元

七

Handwritten notes in the left margin of the left page.

いへしと云々... 是集卷十... 念友念金... 足日本之山島之尾
之山島尾之承夜乎... 初の初... 初の初... 初の初... 初の初...
之四重尾之長承夜乎... 鴨將宿... 初と初... 初と初... 初と初...
とある... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也...
作... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也...
乃各尾... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也... 尾と云也...
まのまの

梅園

萬葉集註釋卷第八

第八卷

石激垂見之上乃夫和良妣乃毛要出春尔成来鴨

この句と... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也...
去年春伊新自而殖之吾屋外之若樹梅者花咲尔家里
とある... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也...
乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也...
乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也... 乃と云也...

大和玉

101

くわりのやう

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

紙伊園

掛保めくう~~~~。又花の世とく~~~~

大和園

園

わや~~~~

~~~~

~~~~

紙女郎贈大伴宿禰家持歌二首

歌奴 変云 和氣

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

の海をよりの海もよるやうな海にさし
 いそつちあつちりかきほりぬるやうな海にさし
 ぶの海にさし杜さつちりぬるやうな海にさし
 さつちりぬるやうな海にさし

おかしのやう 鏡前
 大伴家持 舞梅花 燈梅 上 大娘 祈 祈 中
 伊加登 伊可 等 上 門 上 云 也 伊 波 所 ぬ ば 云
 安 要 収 我 尔 花 咲 尔 家 里

さつちりぬるやうな海にさし
 さつちりぬるやうな海にさし
 さつちりぬるやうな海にさし
 さつちりぬるやうな海にさし
 さつちりぬるやうな海にさし

銅鏡清月本 尔

うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし
 うらやうをさつちりぬるやうな海にさし

字 孔 多 伎 也 志 許 霍 公 島 云

うそしをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。

経毛無緯毛不定未通女等之黄葉尔霜莫零

この言を然らば、その言をわが事とせよ。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。

わが事、世の花はなとある。よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。
よるるをそめよとてしよる也。わが事、世の花はなとある。

+

目

海防の要諦

山上信長七夕秋十二号中
伊奈宗之品

とつちの従也。うらみとて。あつちの助也。
多夫の二名投載部信を天懐故太而礼保不母安麻多原辨奈者
此等以のうらみとて。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。
り。この分最句。帯の年。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。
て候。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。
つれづれ。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。
押紙云々。遺牙二東京賦云々。他碑雨散私云。信長とて。あつちの助也。
少事。本流を明する。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。



あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

若狭也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

此の寺。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。あつちの助也。

十
廿

いづれにゆくゆくはさるるのこ也

みまや戸 ちのちのち

いづれにゆく 同

あつみのふ 同

いづれにゆくゆくはさるるのこ也

いづれにゆくゆくはさるるのこ也

いづれにゆくゆくはさるるのこ也

霧霜尔逢有黄葉平午折来而妹杯頭都後者落十方

このあぢいさす。先皇の神前さうも也。或いはついでと云ふ

おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也。因中説

果の多にあつる。或いは言とほひと云ふ。云。或いは霜成也。此

いづれにゆくゆくはさるるのこ也。或は九月づりのやあといふ。あのおよみぬ

どうもあぢいさす。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也。又あつてもぬ

は也。是は中間の位にあり。このあの中らば。又今

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

あつてもぬ。おれいづれにゆくゆくはさるるのこ也

此方の心... (Right page header)

あつちの心... (Main text on right page)

久永六年三月十六日記之畢

仙覚五郎

建治元年十一月廿七日... (Right page footer)

弘安九年二月廿三日... (Left page main text)

仙覚

日十年九月四日... (Left page date)

仙覚

十... (Left page marginal notes)

萬葉集註釋卷第九

第九卷

あゝあゝ

紀伊

三名郡乃浦塩莫満底島在釣為海人乎見変来六

この字を釣云ふは島の字なり海人乎見変来六
てうらむと釣云ふは和撫云ふの字なり

あゝあゝ

紀伊

あゝあゝ

日

あゝあゝ

日

あゝあゝ

大和

あゝあゝ

大和

萬葉集註釋卷第九

山霧茂鴨細川

宇治川のまがさの瀬といふ瀬ありといふ
抹手折多武山霧茂鴨細川波駛都留

うらまへとていふのうらまへとていふ
うらまへとていふのうらまへとていふ

私記多武峯也

春草馬作山自越来赤流雁使者宿過赤利

ひらくひまのいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
久也。ひらくひまのいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
漢のまより胡のまよと云々。のいづくあやしくも似ぬまひ
その中ついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
わづらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本

いづつ川をいひるま也。わづらひついで本
わづらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
わづらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
わづらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本

大和山

三川之淵物不勝左提利尔亦在温于岷波各尔
こむらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
こむらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本
あまのこむらひついでいづつ川をいひるま也。わづらひついで本

近江國

丹後玉

くらしゆ

丹後玉

いづのそと

少儀園

いづのそと

同

いづのそと

美濃玉

いづのそと

少儀園

いづのそと

同

いづのそと

大如園

珠玉名媛子河中
多長多安房尔能有持弓末乃珠名者

この寺の古殿に... 玉蔵云々... 戸登切流... 也...
と... 知... 事... 多... 長... 多... 安... 房... 尔... 能... 有... 持... 弓... 末... 乃... 珠... 名... 者

集二又... 十卷七夕... 中

い... 集... 二... 又... 十... 卷... 七... 夕... 中...
し... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...
... 備... 名... 野... の... 石... 秋... 十... 卷... 七... 夕... 中...

平ノ事也。此集ノ寄ハ
既ニ故郷ニ歸タルヲ
ノ極也ト云リ是非雖
也今特ニ日本記ニ
ヨクニイタル歴觀
仙臺ト云リ浮和ノ街
宇一テカヘラスノ達
ニイタルヲハ誰カ
シリア説スヘキトモ
他書ノ説アリトモ
ニテコソアランスレカ
日本記無相違ウヘ
武所宇被撰テ光ノ細
日本記自神武天皇
以未撰統天皇ニテ四
一代ヲ三十卷ニ記ス
武以前浦島子ノケ
一不審ナレ
以上ノ稿ナシ稿本
ニ依リ記トス

檀実之櫛状侍宿
ツシムルハ... 栗...
三粟之中尔向有... 不絶...
...
...

天伊玉
林使大伴卿登...
衣年常...
...

十一
〇六

やまをせ。むらりのみるひのさつひの事也。おをさる
とみるひのむらり。都の字をよまも。あまをさるひてむ
らり。備の字ひるれとさるひてさるひてむらり。かよ
らるひてむらり。さるひてさるひてさるひてさるひて
はさるひ。ゆきさるひてさるひてさるひてさるひて
さるひてさるひて。さるひてさるひてさるひてさるひ
中海さるひてさるひてさるひてさるひてさるひて
例さるひてさるひてさるひてさるひてさるひて
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ

みらるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ

攝摩國
野

鹿野郡 野野野 大伴 中
牝牛乃之宅之酒 尔指 向 康 尔 持 尔 之

さるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
このさるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
いてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
ひさるひてさるひてさるひてさるひてさるひてさるひ
夕 鹿 野 郡 野 野 野 大 伴 中 野 野 野 大 伴 中 野 野 野 大 伴 中

いさすまはるゝあまのついでに極とついでにうらたけり
てついでにそのいさすまのついでにうらたけり又上舟不
出とついでに舟の字ついでに割とついでに舟又思はれぬ
思ふんといふはるゝあまのついでにうらたけり

吉乃小竹田下子乃妻問石菟會處女乃奥城叙此

いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり

哀并死去作歌句中
遠國黄泉乃界尔

いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり

見菟原處女墓所句中
焼太刀乃予願押利

完津呂黄泉尔得待跡

いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり
いさすまのついでにうらたけり

川津嶋吉野河之瀧上乃馬醉之花曾置末勿勤

る~~~~~り也

川津嶋吉野河之瀧上乃馬醉之花曾置末勿勤

~~~~~り也

~~~~~り也

春去者紀之許能暮之夕月夜賢東無蒙山臨尔指天

一云春去者木陰多暮月夜の奇左既入

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

~~~~~り也

昔の木のやうな心なりのことだ。さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、

さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、

さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、  
さうして、さうして、さうして、さうして、

姫部思咲野爾生白管句不知事以所言之吾背







有智者可無傾察有智者可無傾察。心あづきや。ひきつめてまうのうそが  
とづ。そのこころもまた又ち然るなり。下の句の集れ  
るや。花咲及二所居花咲及二所居を統とと。これとかく。そのこころもまたいしま  
あつめし。その心もまた。又所居所居のこ  
ころ。二款二款の着とも。その心もまた。又その集れの  
り。かとも。その心もまた。又その集れの  
ひきつめてまうのうそが。又その集れの  
男女男女の心もまた。又その集れの  
つひ。かとも。その心もまた。又その集れの  
と舟の心もまた。又その集れの  
ひきつめてまうのうそが。又その集れの

花の心もまた

うら。まのこころもまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの  
花の心もまた。又その集れの  
又舟の心もまた。又その集れの  
久久の心もまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの

香香細細寸寸花花橋橋乎乎玉玉貫貫將將送送婦婦者者之之礼礼而而免免有有香香

の心もまた。又その集れの  
の心もまた。又その集れの

十一  
七





いしこあしむあいらうらんがのあしむあしむあしむあしむ  
くしあしむあしむあしむあしむ

僕月累而妹尔相

はのあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

午す十名相殖之名知久出見者屋前之早芽子咲尔家類  
香剛

このあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

也。てしあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

妹手平取石之根間從鳥音異鳴秋過良之

あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむあしむ

姓の中より行り。まわしむ心も侍也。さういふ方々ありぬ。  
 九月乃鐘礼乃兩丹活通春日之山者色付丹来  
 九月ニヨマンテ不可憚ニイテ  
 妹新跡馬鞍置而射駒山撃越来者紅葉散筒  
 筒也  
 里異霜者置良之高松野山司之色付見者  
 此等亦に色付ありの所山同之。

九月乃鐘礼乃兩丹活通春日之山者色付丹来  
 妹新跡馬鞍置而射駒山撃越来者紅葉散筒  
 筒也  
 里異霜者置良之高松野山司之色付見者  
 此等亦に色付ありの所山同之。





くぶの

出雲

朝あけの霞をたふし  
 月をみれば影もあはれ  
 花の影もあはれ  
 朝あけの霞をたふし  
 月をみれば影もあはれ  
 花の影もあはれ

あきつゝ...  
 秋深とて...  
 和歌の...

とく...  
 ちか...

壁言病歌一首

壁言病歌一首  
 ちか...  
 とく...





稿本

文永六年三月十日於武藏國金

北方麻師宇御政所記之年

仙覺 在列

建治元年十二月廿一日以作者仙覺律師白筆本

教人書寫年

吉覺 在列

同二十一日一板年

